

東京医科大学看護専門学校紀要最終号に寄せて

東京医科大学循環器内科主任教授・東京医科大学看護専門学校 相談役
元学校長 山科 章

2013年に東京医科大学看護専門学校は創立50周年を迎えました。10月には記念式典・講演会を挙行之、50年周年誌も発刊しましたが、2016年3月末をもって閉校となります。看護専門学校の紀要も創刊して四半世紀が経ちますが、閉校に伴い今回の2015年度版（第25巻）をもって廃刊となってしまいます。

閉校が近づくと、必然的に学生数も少なくなっており、2015年4月からは、学校にいるのは3年生のみとなりました。その3年生も病院での臨地実習が多く、看護専門学校は閑散として寂しいのではと心配しています。

病院にいる私にとっては、ユニフォーム姿の3年生が明るい雰囲気を作り出していることを感じます。臨地実習している3年生に廊下などですれ違うと、皆という皆が、前の校長先生だと気づいてくれ、笑顔で挨拶してくれます。“元気ですか”と声をかけると“元気です”という返事が返ってきます。あの笑顔と明るさはまわりを元気にします。きっと患者さん達を癒していると想像しています。

話が戻りますが、25年前より継続していた紀要がもうすぐ廃刊になるのはとても残念です。教員の先生方が、看護教育における研究をまとめ、有形の成果として残してきたものです。心、知、技を備えた看護師を養成し、医療・看護を通じて社会に貢献する人材を社会に送り出すことを目指して切磋琢磨されてきた東京医科大学看護専門学校の教員の証です。これまでの出版物は、東京医科大学内の図書館に配架されるに留まらず、東京医科大学図書館ホームページ上の『東京医科大学学術リポジトリ』にアクセスすれば、PDF化された紀要がいつでも閲覧可能です。是非、今後も多くの方々に活用いただければと願うと共に、教員および卒業生のこれからの一層の活躍を期待しております。